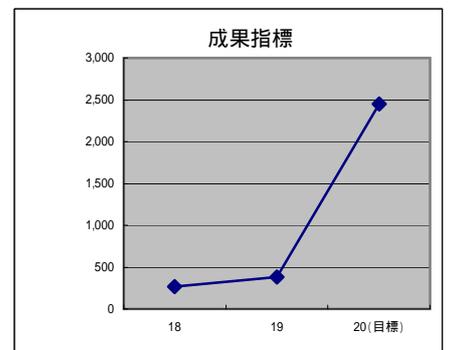
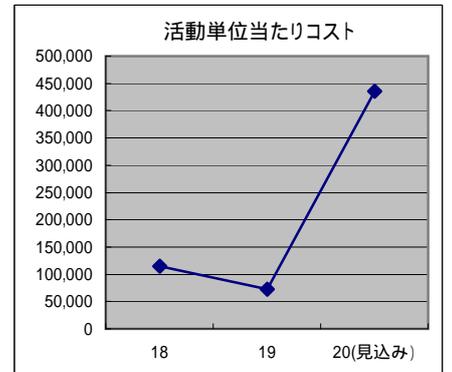


事務事業名		日常生活用具給付事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		款	3	民生費
	施策(節)	3	高齢者福祉		項	1	社会福祉費
	施策の方向	(1)	地域包括ケアシステムの構築		目	3	老人福祉費
	関連する計画等	第3期高齢者いきいき計画			事業	1	老人福祉援護
				作成部署	保健福祉部保険健康室高齢介護課		
				連絡先	072 958 1111 内線 1380		
事業の目的	対象(誰を・何を)						
	概ね65歳以上、ひとり暮らし等の在宅高齢者						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	高齢者が安全で安心な生活が営める						
	緊急災害発生時(主に火災等)にいち早く対応できるように火災報知機や自動消火器等を給付する事業である。また、その他の給付では電磁調理器など火災を予防するものの給付も行っている。						
根拠法令等							
事業開始時期		<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 2 年 月開始 <input type="checkbox"/> 明確にはわからない			終了年度	平成 年度	
事業開始時からの状況変化		国庫補助の対象から平成17年度より外れてしまう。また、平成18年より火災警報器が法律で設置義務化されており、防災部局の警報器普及啓発事業と重複する面からも、検討が必要と思われる。					
市民や議会の要望							
実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助金・助成金 <input type="checkbox"/> その他()					
委託先		<input type="checkbox"/> 外郭団体委託	名称	委託内容			
		<input type="checkbox"/> 民間委託					

区分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		266	378	20
人件費【2】 (千円)		882	852	852
職員数	正規職員	0.08 人	0.08 人	0.08 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.05 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.05 人	0.10 人	0.10 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		1,148	1,230	872
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他(手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	1,148	1,230	872
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
適正な給付件数	件	10	17	2
活動単位当たりコスト(【A】/【B】)		114,800 円	72,353 円	436,000 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		10 円	10 円	7 円



成果指標	指標名	指標設定の考え方	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
			目標	実績	目標	実績		
					達成率(%)			
日常生活用具給付事業(式)	日常生活用具給付事業	事業費	1,000	266	1,278	378	29.6%	2,452
			10	10	17	17	100.0%	
日常生活用具給付事業(式)	日常生活用具給付事業	適正な給付件数(給付した機器等の不備および不正な給付等に当てはまらない件数)	10	10	17	17	100.0%	2

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある		有

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
妥当性	市民ニーズが高い	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	消防法の改正により義務付けられた火災警報器等の普及は今後伸びていくことが考えられるが、消防法改正の趣旨からすると防災部局の普及啓発と重複する面があり、妥当性を検討する必要がある。また、老人福祉方の給付措置として位置づけられているが市町村の実施義務ではない。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	社会情勢の変化に対応している	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	国・府の事業と重複していない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	緊急性が認められる	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	給付する物品等の単価については、入札等を実施し一律の金額を定め高額なものの給付は行わない。
	受益者負担の割合は適当である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	人員を削減する余地がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業費を削減する余地がない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	簡略化できる方法や手段がない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	市の他事業と重複していない	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	被害を最小限に抑えることを目的とした点では有効的であり、技術の進化にも遅れないことが必要である。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	成果を向上させる余地がない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	婦人防火クラブ等の啓発により、本市事業と並列に進めている火災警報器等の販売に組み込むことは財政上困難であるが折り合いをつけて活動を支援していく必要も検討する。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
達成度	成果指標の目標値は適正である	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	達成度(現状の申請件数)から見て事業の需要が低く検討が必要である。
	成果指標の実績値は目標値以上である	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	成果指標は前年度より向上している	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

担当 部局 評価	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡大・充実 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 民営化・民間委託 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 完了
	評価の理由	
		給付する機器等については平成20年度より登録制を廃止し入札にて実施する。
		今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)
		柏原羽曳野藤井寺消防組合火災予防条例第29条の2では、既存住宅への火災警報器の設置義務が平成23年6月1日となっているため、当該事業の継続についても検討が必要である。